

# 横溝 正史 Yokomizo Seishi の 世界

金田一耕助・誕生100年展



2013年 9月10日(火) ~ 12月1日(日)

- 開館 / 9時30分~17時 (入館は16時30分まで)
- 休館日 / 毎週月曜日(祝日は開館)・祝日の翌日
- 入館料 / 一般...400円 大・高生...300円 中・小生...200円

併催：企画展「名探偵・金田一耕助の“岡山ぶらりスケッチ紀行”」

〒700-0807 岡山市北区南方3-5-35  
TEL.086-223-7411 FAX.086-223-7418  
<http://www.kibiji.or.jp>

協力：二松學舎大學 中国新聞社  
後援：中国銀行 岡山県郷土文化財団  
(総企・第56号・H25.8現在・H.25.11.29期限)



# 横溝正史の世界

Yokomizo Seishi

2013年9月10日(火)～12月1日(日)

吉備路文学館  
KIBIJI LITERARY MUSEUM

## ～ 金田一耕助・誕生100年～ 展

金田一耕助は、昭和21年、岡山に疎開していた横溝正史によって生み出されて以来、名探偵として長きにわたって活躍を続け、登場作品は全部で77作品を数えます。金田一耕助の誕生日は不明なのですが、横溝正史は読者との座談会で「大正2年(1913)生まれ」と語っており、今年誕生100年になります。金田一耕助のモデルについては、後年まとめられた「金田一耕助誕生記」(当館所蔵資料)に、「最初考えた探偵の名前は、菊田一なにがしであった。」としています。

このたび、二松學舎大學のご協力により、横溝正史旧蔵資料の中から金田一耕助に関わるものを中心に借用し、「横溝正史の世界 ～金田一耕助・誕生100年～」展を開催する運びとなりました。『獄門島』、『八つ墓村』、『犬神家の一族』、金田一耕助最後の登場作『悪霊島』他、原稿、ノート、シナリオ、書簡、写真など、貴重な資料を展示紹介いたします。



### 横溝正史 Yokomizo Seishi

小説家/本名 正史(まさし)/神戸市生 【明治35年(1902)～昭和56年(1981)】

神戸二中時代から探偵小説を耽読する。大正10年、「新青年」に「恐ろしき四月馬鹿」を投稿し、入選。のち大阪薬学専門学校に進み、卒業後は家業の薬種商に従事しながら探偵小説を書く。その後、江戸川乱歩の誘いで上京。博文館に入社し、雑誌「新青年」、「文芸倶楽部」などの編集を担当。本格的文筆活動に入る。両親が岡山県出身のため、昭和20年から23年まで、吉備郡岡田村(現・倉敷市真備町)で疎開生活を送ったことが、その後の執筆活動に大きな影響を与えた。この時期に見聞した題材をもとに、『本陣殺人事件』、『獄門島』、『八つ墓村』など、岡山の山村、瀬戸内の風景を舞台にした数々の作品を発表し、作家としての地位を確立した。「金田一耕助」は、まさに岡山が生誕の地である。

### 関連イベントのご案内

9/28  
土

#### フルート&朗読会 「悪魔が来りて笛を吹く」

- ◆ 時間：13:30～15:00
- ◆ 出演：山本乃菜(フルート)  
朗読 まきび・野の花(朗読)
- ◆ 会場：吉備路文学館
- ◆ 定員：50名

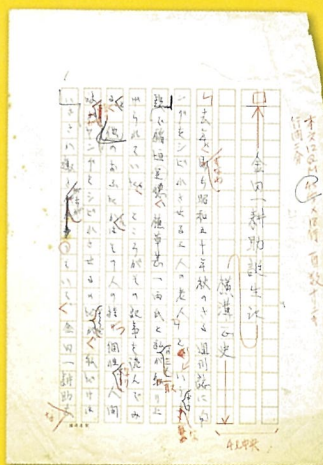
10/26  
土

#### 講演会 「岡山の金田一耕助を語る」

- ◆ 時間：13:30～15:00
- ◆ 出演：網本善光(創元推理倶楽部広島・岡山分科会)
- ◆ 会場：吉備路文学館
- ◆ 定員：50名

申込方法：電話(086-223-7411)にてお申込みください。  
入館料でご参加いただけます。

※当日のみベネッセ駐車場をご利用いただけます。なるべく公共交通機関をご利用ください。詳細は当館までお問い合わせください。



原稿「金田一耕助誕生記」



『本陣殺人事件』/青珠社  
昭和22年



『獄門島』/岩谷書店  
昭和24年



『悪魔が来りて笛を吹く』/岩谷書店  
昭和29年

### 企画展 「名探偵・金田一耕助の“岡山ぶらりスケッチ紀行”」【画・南一平】

南一平氏【昭和22年(1947)、笠岡市生】……東京デザイナー学院在学中に月刊誌「ガロ」に初めて描いた漫画が掲載され、新人賞を受賞しプロの漫画家になる。以後「少年ジャンプ」などで連載漫画を執筆。その後、地元笠岡諸島をテーマにした風景画などを手がける。また、旧川上町(現・高梁市)の「マンガ文化の町づくり」アドバイザーなど多方面で活動。主な作品に『岡山の歴史』『山田方谷物語』など。

今回の展示は「みちくさ紀行・金田一耕助の影を追って」のタイトルで、「中国新聞」に連載となったもので後に『岡山ぶらりスケッチ紀行』(岡山文庫)として再録されています。日本家屋での密室殺人(『本陣殺人事件』倉敷市真備町)、俳句になぞらえた事件現場(『獄門島』笠岡市)、鍾乳洞内の大追跡(『八つ墓村』新見市)など、岡山の風景の中に金田一耕助の影を追い、横溝正史の小説世界を追体験していただきながら、南一平さんの世界をお楽しみ下さい。